

教科等横断型授業「 体育 」×「 理科 」 学習指導案

SDGsでの課題	SDGsの番号(3 番)「 すべての人に健康と福祉を 」			
実社会での課題	近年、若者の体力低下・運動離れは将来に向けて心配な課題である。体力の向上は健康の保持増進はもちろん、学力向上・精神的成長にも密接な関係がある。ソフト競技未経験者や競技経験の少ない生徒にとって飛球の捕球動作は困難であるが、運動の技術的特性をわかりやすく理解させることで積極的に行動させ技術と体力の向上に努める。			
生徒に身に付けさせたい資質・能力	非日常的な動作が多い ソフトボール競技において、未経験者等が飛球を捕球することは困難である。飛球感覚を習得するために今回はペットボトルロケットを使用し、物理の視点から落下点を予測し捕球につなげる練習を行い、捕球の楽しさと前向きに挑戦する積極的な取り組みの育成を目指す。			
主題 (教材)	球技 (ソフトボール)			
	学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 事 項	資 料 等
指 導 入 展 開 程 理 備 考	1 出席確認・健康観察 2 本時の目標の確認 3 準備運動	10	<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態を確認させる。 ・本日の目標を説明し習得スキルを明確にする。 ・動きの準備ができるようにしっかり準備運動を行わせる。 	ソフトボール用具 置きT台
	1 キャッチボール (1)10mフライ (2)遠投によるフライキャッチ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・10m間で捕球。苦手な生徒は両手で上下にボールを挟むように捕球させる ・落下するボールを目で引き付けて捕球する感覚を理解させる。 	行動観察 評価 (知・技)
	2 ロケットによる落下点予測	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルロケットにより角度・速度・高度を感覚的に理解させ落下地点を予測させる 	ロケット発射装置 評価 (思・判)
	3 ノックによる捕球 (1)実打球を2人で協力して捕球	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ノックによる実打球を落下地点を予測して捕球させる ・2人で声をかけながら1人が捕球、捕らない方はコーチングをさせる。 	評価 (主体的)
	4 T打撃による打球を捕球	5	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に打った予測不可能な打球を2人で協力して捕球させる。 	評価 (主体的)
1 本時のまとめ 2 健康観察 整理運動 3 次時の予告	5	<ul style="list-style-type: none"> ・捕球スキルの整理をする。 ・健康観察を行い次時の内容を確認する。 		
備考	3年生 (男子15名 女子9名) 計24名			

教科等横断型授業「英語」×「化学」 学習指導案（例）

SDGsでの課題	SDGsの番号(13番)「気候変動に具体的な対策を」			
実社会での課題	深刻化する温暖化を抑止するためには、①温室効果ガス排出削減、②エネルギー消費の削減、③代替エネルギーの開発と利用、④ライフスタイルの見直しなど様々な取り組みが必要とされる。地球が置かれている現状を把握し、具体的にどのように取り組んでいくかが課題である。			
生徒に身に付けさせたい資質・能力	温室効果ガス削減に向けて、世界でどのような取り組みがなされているか、何が課題であるかを考えるとともに、持続可能な社会を実現するために必要なこと、自分たちができることについて考えさせる。			
主題（教材）	メタンガス排出削減に向けての取り組みについて考えよう。			
	学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 事 項	資 料 等
指 導 入	温室効果ガス削減に向けて、世界の取り組みについて理解する。	7	○ COP26の英語ニュースを視聴し、温室効果ガス削減に向けた合意内容と、残された課題について理解させる。	○電子黒板 ○NHK WORLD NEWS
	1 メタンガスが温暖化に及ぼす影響について理解する。	7	○ 資料やグラフを用いて、メタンガスが二酸化炭素より温暖化に何倍も深刻な影響を及ぼすことを理解させる。	○電子黒板 (資料1)
展 開	2 メタンガス排出削減に向けて、教科書（英文）に紹介されている取り組みについて理解する。	10	○ 家畜から排出されるメタンガスを削減するために、紅藻を飼料にする取り組みの効果と課題について理解させる。	○教科書（英文） ○ワークシート (資料2)
	3 メタンガス排出削減に向けて、本文に述べられていること以外に考えられる方法を話し合う。	10	○ 技術的側面だけでなく、多角的に考えさせる。また、それぞれのメリット・デメリットを捉えさせる。	○生徒用端末
	4 各グループが話し合った内容を共有する。	4	○ 各グループから出てきた考えを参考にさせる。	○生徒用端末
程 序	5 40語程度の英語で、自分の考えをまとめ、ロイロノートで提出させる。	10	○ 授業の内容、各グループから出たアイデアを参考に、自分の考えを英語で論理的に表現させる。	○生徒用端末 ロイロノートで提出 (資料3)
	○ 学習内容を確認する。 ○ 次時の課題を確認する。	2	○ 学習内容を理解できたか確認させる。	
備 考				